

# すずらん通信

Vol.50  
令和5年  
3月28日  
発行

## 小田原不登校相談会

2月4日、小田原の不登校相談会に参加しました。当日は87名、60組の親子が相談に訪れました。会場が小田原だったこともあり、鈴蘭学園のブースにはあまり相談に来ないのではないかと考えていましたが、伊勢原からの相談者が2名程来られました。

今回は、低学年のお子さんの相談が、多かったようにも思えました。伊勢原方面には、フリースクールがないため、どう対応していったらよいかかわからないと切実な思いをお話していかれました。神奈川県にはフリースクールがいくつもある所とない所と差が激しいため、これから先、各市町村が学校やフリースクールと連携しながら、地域の実情に合わせてどう対処していくのか課題でもあると思います。(中村 鳴美)

## 親の会報告

3月12日(日)に親の会があり、6組の保護者の方の参加がありました。当日はこちらからの進行ではなく、保護者主体で会が行われました。まず、それぞれの自己紹介とフリースクールに通っている子どもの紹介、そして今の状況について各自が話していききました。

子どものことを話す中で感極まって涙ぐむ保護者の方、逆にフリースクールに通う中で、子どもに明るさや笑顔が出てきたことを嬉しく話す保護者の方。それぞれの話を皆で共有する中で、会が終わる頃には話が盛り上がっていました。フリースクールは子どもの居場所だけではなく、大人(保護者)にとっても居場所であるのだということに改めて感じました。

日頃、私はリリーベルでの対応が多く、フリースクールの状況を知る上で親の会は有難い存在であり、保護者の方との繋がりを作る良い機会となりました。そして、私を自己紹介できる良い機会となりました。有難うございました。(桑原 和也)

## 4年ぶりボウリング

2月17日、お楽しみ会でボウリングへ行きました。新型コロナが流行して以来、屋内のお楽しみ会は控えてきましたが、昨今の状況を踏まえて慎重になりながらも再開することにしました。すずらん学園のお楽しみ会でボウリングへ行くのは実に4年ぶりです。そのため前回とは全く異なるメンバーでの開催でした。スタッフも含めて全員が久しくボウリングをしていない

か初めての経験だったため決して良い成績は出せませんでしたが、がんばってスベアやストライクを出すとガッツポーズをしたり、飛び跳ねて喜んだり。一生懸命やってみればそれで良いのです！新鮮な経験になったと思います。

社会の状況に合わせ、鈴蘭学園も少しずつ活動の幅をもとのように広げていきたいと考えています。(菅原 雅史)



## 卒業週間

3月22日から一週間、鈴蘭学園を卒業する生徒のお祝いをする期間を設けています。居場所がなく悶々とした日々を過ごしていた子どもたちが私たちと出会い、友人と出会い、エネルギーを取り戻し、次のステップへ進んでいきます。鈴蘭学園で未来を築く子どもたちの様子は、冬が終わり暖かくなっていく3月のようです。卒業しない子どもたちにしても、自分の近い将来の姿を目にすることになります。記念のピザを食べたり、寄せ書きにメッセージを書いたりするうちに、数年後の具体的なイメージができることでしょう。

この期間の鈴蘭学園での過ごし方は、一度だけピザが食べられる以外に大きな違いはありません。しかし、ほんの少しだけ

いつもとは違う雰囲気、残る子どもたちは様々なことを考え、また、成長していくでしょう。卒業する子どもたちも、不安な気持ちを抱きながらも勇気をもって次なる一歩を踏み出します。それこそが、鈴蘭学園のエンパワメントなのです。(菅原 雅史)

## 一年間

ありがとうございました。

先日のリリーベルでのウォーキング活動中のことでした。市役所通りを歩いていた時に利用者のお子さまの一人が、「ここは春になると桜がきれいに咲くんですよ」と教えてくれました。思い返すと、ここに来た初日も同じ通りを歩く機会があり、そこでは満開の桜を見ることができました。同じ桜の木に枝先に蕾が付き開花を待つ様子を見ると、改めて一年間という月日の早さを感じるとともに、桜の満開を見る前にここを離れなければならない寂しさを感じました。

今回の研修を振り返ると、一年間という短い期間ではありましたが、数多くのことを学び、気づき、考えさせられた一年間でした。それは教育そのものや子どもたちとの向き合い方だけでなく、心理や福祉の分野に関する諸事項やフリースクールの持つ「居場所」の底力、自分自身や社会全般に関しての捉え方や考え方も見直せたと感じています。既に報道されているように、不登校の数は過去最多にも及び、もはや深刻

な社会問題の一つとなっている印象を受けます。こうした状況を鑑みますと、学校現場にも支援機関の考え方を取り入れつつ、学校という制や環境、または教育活動や教職員自身の認識などを改めて見直す必要があると考えています。これこそ今回私が鈴蘭学園やリリーベルへ研修に来た大きな意義なのだと改めて実感しています。

最後に、鈴蘭学園・リリーベルのスタッフの皆様へ。土壌や環境も異なる何も知らない私を一年間受け入れてくださり、さらに多くの学びの機会や経験の場をいただき誠にありがとうございました。とても実りのある一年間でした。ぜひ学んだことなどを少しずつながらも、学校現場・学校教育に還元していきたいと思います。

鈴蘭学園・リリーベルを利用する(した)子どもたちへ。皆さんと出会えたことを本当に嬉しく思います。皆さんと過ごした時間は、楽しくもかけがえのない時間でした。あっという間でしたね(笑)。そして何より、皆さんから大切なことを学び教わった気がします。僕にとって人生の大切な「宝物」が増えました。本当にありがとう！皆さんの「これから」を陰ながら応援します。

さて、4月より私は学校現場に戻りますが、皆さんへ「さよなら」とは言いません。人生の路のどこかで、「またお会いしましょう」。一年間ありがとうございました。

(鼻輪 展亮)

## リリーベル活動報告

今年度も終わりが近づき、新たな1年が4月から始まります。改めまして、皆様、修了・卒業おめでとうございます。新たな1年が皆様にとって学びある楽しい日々となりますよう、また、リリーベルが皆様にとってその助けとなれるようこれからも精進して参りますので、皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2月といえばバレンタインとのことでチョコレートカップケーキを作りました。カップケーキに好きな飾りつけをして、皆おしゃれなカップケーキに仕上がりました。調理実習として他には豚肉の生姜焼きや塩昆布とサバの炊き込みご飯を作りました。メニューのアイデアを子どもたちからもらいリリーベルで作ってみる活動も増えました。美味しいを皆で共有できる時間はとても素敵ですね。



創作活動では皆で松ぼっくりを使ったハリネズミやカップアイスモチーフにしたメモスタンド作りをしました。ハリネズミはとても可愛く、カップアイスはとても美味しそうな仕上がりになり、見ていてとても楽しくなる作品の数々でした。他には、レジンで鈴蘭を作ったり、折り紙でチューリップを作ったりしてリリーベルにプレゼン

トしてくれた子がいました。とても素敵な作品なので玄関や部屋に飾ってありま



す。花の飾りが増えてきたためリリーベルが一層華やかになりました。プレゼントしてくれた方、ありがとうございました。

ウォーキング企画を続けているリリーベルでは、春の訪れを肌で感じる日々となりました。2月のウォーキングでは、矢部駅周辺にあるスポットを、スタッフが予め

用意したヒントを元に歩いて探す企画を実施しました。子どもたちにとっても初めて矢部駅周辺を細かく探索したとの事で新たな発見や面白いスポットを楽しんでいました。3月では境川にそって散歩を楽しみました。暖かい空気の中、早咲きの桜や梅の花を見て楽しんだり、境川にいるコイや亀、シラサギを観察したりするなど、のんびり過ごした1日でした。(佐野 拓哉)



## 中村のちょっとしんみりする話

今年も卒業という悲しくもあり嬉しくもある時期がきました。今年の鈴蘭学園の卒園生は4名、皆さん高校へと進学されました。そして、毎年鈴蘭学園の近くで咲く、すずらんの花も子どもたちを祝うかのように咲きはじめました。すずらんの花言葉は、「再び幸せが訪れますように」次のステップに向けて、大きなエールを送ります。いつまでもいつまでも、応援していますからね。



## お悩みの方、ご相談ください。

自信・活力・自分らしさを取り戻すため、あなたと共に問題に向き合います。まずは、ご相談ください。

相談専用ダイヤル TEL: 042-733-0015

電話相談事業は、神奈川県フリースペース等補助金により運営しています。